

平成 26 年度岡山市市民協働推進モデル事業報告書

実施団体	団体名	特定非営利活動法人アートファーム (担当者 大森 誠一)			
	合同実施団体 (* 協議体・実行委員会等で実施した場合、構成団体をすべて記載してください。)				
協働した岡山市の 担当課等と担当者	課名	教育委員会事務局指導課 市民局文化振興課	電話	086-803-1591 086-803-1054	
	担当者 2名	職名 指導課指導係長 氏名 植山智恵	職名 氏名	文化振興課主任 笠原奈美	
事業の名称	学校とアートがつながるモデル事業				
<p>本事業により解決を目指した課題とその成果</p> <p>※アンケートなどあれば添付してください。</p>	<p><解決を目指した課題> 子どもたちの潜在的な創造性や自主性や協調性を引き出すこと——日頃の授業や学校生活の中で取り組んでいる課題を、文化芸術のアーティストが関わることにより、解決に向けての実践的なアプローチに取り組んだ。 実施にあたっては、モデル事業にふさわしく学校での体験学習ワークショップに経験豊富な演劇のスペシャリスト（演出家・田上豊氏と俳優・菅原直樹氏）を選んで岡山市立平津小学校に派遣した。</p> <p><その成果> 講師の田上氏は、子どもたちに対して「伝え合う、助け合う、演じ合う」をテーマにワークショップを行うことを説明し、11月から2月まで全5回にわたって、自由な発想で言葉やカラダで表現してみる自主性と創造力、みんなで協力しながらやり遂げる協調性とコミュニケーション力を体験した。 また、他校の教師を対象にした公開授業とアフタートークを実施し、演劇を生かした表現教育について知見を深めた。 さらに、最終回には保護者を対象にした発表会も実施し、はつらつとした子どもたちの様子を披露することができた。</p>				
市と協働した内容と 協働の効果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 団体が果たした役割 学校と講師の調整、内容の策定、体験授業の運営 2. 岡山市の担当課等が果たした役割 実施校との調整、実施事業の周知 3. 協働した効果 実施校の選定と理解がスムーズに進んだ。 実施校の意欲を引き出すことができ、平成 27 年度には文部科学省の「芸術家の派遣事業」にエントリーして、モデル事業の継続性が生まれた。 				
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・実施校：岡山市立平津小学校 ・対象者：4年生40人、教師、保護者、他校教師 ・講師：田上 豊（劇作家・演出家、劇団田上パル主宰、東京） ・アシスタント：菅原直樹（俳優・介護福祉士、Oibokkeshi 主宰、岡山） ・実施期間：平成 26 年 11 月 18 日 ～ 平成 27 年 2 月 20 日 ・実施回数：5 回（ワークショップ 4 回、発表 1 回） ・実施会場：岡山市立平津小学校・体育館 ・実施分野：演劇 				

<p>事業実施の体制 ・実施者名</p>	<p>1. 総括責任者 大森誠一</p> <p>2. 個別事業責任者 大森誠一、古本径子、大森美穂</p> <p>3. その他事業従事者 役割・氏名 大森誠一：講師の選定、講師・実施校・協働課との連絡調整、実施内容の企画検討 古本径子：実施授業の運営、文筆記録、ネット広報(講師出演)スタッフ 大森美穂：実施授業の運営、撮影記録、ネット広報(講師出演)スタッフ 浅尾和恵：講師送迎、乗車券手配 古本順子：予算・出納管理 伊東大輔：ネット広報(講師出演)スタッフ</p>												
<p>事業実施経過</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="480 651 647 689">月 日</th> <th data-bbox="647 651 1425 689">実施内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="480 689 647 875">11月18日</td> <td data-bbox="647 689 1425 875">開始にあたり講師の田上氏とアシスタントの菅原氏がユーモアを交えて自己紹介。冒頭、全体のテーマ「伝え合う、助け合う、演じ合う」を説明。椅子取り鬼ごっこゲームを用いて、全員が集中して伝達し協力する大切さを学んだり、ジェスチャーを用いてコミュニケーションする方法を体験した。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="480 875 647 1025">12月9日</td> <td data-bbox="647 875 1425 1025">2回目もお互いのコミュニケーションを重視したゲーム形式で進行。全員が円となり拍手をリレーしていく伝達ゲーム、5チームに分かれて複数の対話を重ねていく聖徳太子ゲームなど、伝え合うことや協力しあうことの大切さを実践した。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="480 1025 647 1249">1月13日</td> <td data-bbox="647 1025 1425 1249">3回目からは演劇表現で用いられる台本をテキストに進行。3人一組のチームに分かれて、ストーリーを考えたり、アイデアを出し合ったり、セリフを作ったり、チームごとの自主性を大切にしながら、考えや意見の違いを互いに共有していく内容となった。終了後には、近隣の小学校と幼稚園から見学に訪れた先生方と懇談し、授業の感想や講師との質疑応答が行われた。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="480 1249 647 1400">2月19日</td> <td data-bbox="647 1249 1425 1400">前回創作した台本を上演する取り組みが進行。各チームは他のチームが作成した台本を上演することになり、シーンやセリフを理解・解釈したり、それを魅力的に上演するための場所(体育館の任意の場所)を選んだり、小道具などの設えに工夫を凝らした。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="480 1400 647 1550">2月20日</td> <td data-bbox="647 1400 1425 1550">いよいよ発表会本番の日。30人を超える保護者が体育館に集うなか、チームごとの発表が行われた。どのチームも自由な発想から生まれた意欲的な作品ばかりで、終了後には、講師から一つひとつの発表について、細やかな講評と頑張りをたたえるコメントが伝えられた。</td> </tr> </tbody> </table>	月 日	実施内容	11月18日	開始にあたり講師の田上氏とアシスタントの菅原氏がユーモアを交えて自己紹介。冒頭、全体のテーマ「伝え合う、助け合う、演じ合う」を説明。椅子取り鬼ごっこゲームを用いて、全員が集中して伝達し協力する大切さを学んだり、ジェスチャーを用いてコミュニケーションする方法を体験した。	12月9日	2回目もお互いのコミュニケーションを重視したゲーム形式で進行。全員が円となり拍手をリレーしていく伝達ゲーム、5チームに分かれて複数の対話を重ねていく聖徳太子ゲームなど、伝え合うことや協力しあうことの大切さを実践した。	1月13日	3回目からは演劇表現で用いられる台本をテキストに進行。3人一組のチームに分かれて、ストーリーを考えたり、アイデアを出し合ったり、セリフを作ったり、チームごとの自主性を大切にしながら、考えや意見の違いを互いに共有していく内容となった。終了後には、近隣の小学校と幼稚園から見学に訪れた先生方と懇談し、授業の感想や講師との質疑応答が行われた。	2月19日	前回創作した台本を上演する取り組みが進行。各チームは他のチームが作成した台本を上演することになり、シーンやセリフを理解・解釈したり、それを魅力的に上演するための場所(体育館の任意の場所)を選んだり、小道具などの設えに工夫を凝らした。	2月20日	いよいよ発表会本番の日。30人を超える保護者が体育館に集うなか、チームごとの発表が行われた。どのチームも自由な発想から生まれた意欲的な作品ばかりで、終了後には、講師から一つひとつの発表について、細やかな講評と頑張りをたたえるコメントが伝えられた。
月 日	実施内容												
11月18日	開始にあたり講師の田上氏とアシスタントの菅原氏がユーモアを交えて自己紹介。冒頭、全体のテーマ「伝え合う、助け合う、演じ合う」を説明。椅子取り鬼ごっこゲームを用いて、全員が集中して伝達し協力する大切さを学んだり、ジェスチャーを用いてコミュニケーションする方法を体験した。												
12月9日	2回目もお互いのコミュニケーションを重視したゲーム形式で進行。全員が円となり拍手をリレーしていく伝達ゲーム、5チームに分かれて複数の対話を重ねていく聖徳太子ゲームなど、伝え合うことや協力しあうことの大切さを実践した。												
1月13日	3回目からは演劇表現で用いられる台本をテキストに進行。3人一組のチームに分かれて、ストーリーを考えたり、アイデアを出し合ったり、セリフを作ったり、チームごとの自主性を大切にしながら、考えや意見の違いを互いに共有していく内容となった。終了後には、近隣の小学校と幼稚園から見学に訪れた先生方と懇談し、授業の感想や講師との質疑応答が行われた。												
2月19日	前回創作した台本を上演する取り組みが進行。各チームは他のチームが作成した台本を上演することになり、シーンやセリフを理解・解釈したり、それを魅力的に上演するための場所(体育館の任意の場所)を選んだり、小道具などの設えに工夫を凝らした。												
2月20日	いよいよ発表会本番の日。30人を超える保護者が体育館に集うなか、チームごとの発表が行われた。どのチームも自由な発想から生まれた意欲的な作品ばかりで、終了後には、講師から一つひとつの発表について、細やかな講評と頑張りをたたえるコメントが伝えられた。												
<p>実施上で連携した団体とその内容</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="448 1594 876 1637">名称</th> <th data-bbox="876 1594 1477 1637">期待される役割</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="448 1637 876 1680">公益財団法人福武教育文化振興財団</td> <td data-bbox="876 1637 1477 1680">協働で実践してきた学校アウトリーチ事業の実績</td> </tr> </tbody> </table>	名称	期待される役割	公益財団法人福武教育文化振興財団	協働で実践してきた学校アウトリーチ事業の実績								
名称	期待される役割												
公益財団法人福武教育文化振興財団	協働で実践してきた学校アウトリーチ事業の実績												
<p>本事業を踏まえた、翌年度以後の予定</p>	<p><input type="checkbox"/>NPOがネットワークを構築し、他団体と連携し実施する予定。</p> <p><input type="checkbox"/>岡山市の一般施策として実施する予定。</p> <p><input type="checkbox"/>翌年度も協働で実施する予定。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>その他（ 文部科学省支援の「芸術家の派遣事業」として継続する予定 ）</p> <hr/> <p>具体的な計画があれば記載してください。 本モデル事業と同じ岡山市立平津小学校を実施校に、講師も田上豊氏と菅原直樹氏のコンビで実施する計画で、文部科学省に申請中。</p>												

平成26年度市民協働推進モデル事業収支決算書

事業名		学校とアートがつながるモデル事業	
<収入>			
費目		金額	内訳
自己	実施団体	90,040円	年間事業費から捻出
	その他		
自己資金等合計(a)		90,040円	
事業収入			
事業収入合計(b)			
その他収入	協賛	100,000円	公益財団法人福武教育文化振興財団
その他収入合計(c)		100,000円	
岡山市補助金決定額(d)		760,000円	
収入合計(e)=(a)+(b)+(c)+(d)		950,040円	
<支出>			
費目		金額	内訳
事業実施経費	報償費	275,000円	田上1回35,000円×5回=175,000円 菅原1回20,000円×5回=100,000円
	交通費	165,950円	田上(東京・岡山往復)138,720円 菅原(和気・岡山往復) 1回1,000円×5回=5,000円 現地交通費(岡山駅・平津小往復) 1回1,000円×5回=5,000円 スタッフ交通費3人(自宅・平津小往復) 按分1人1,000円×3人×5回=15,000円 現地駐車費(岡山駅・和気駅)2,230円
	宿泊費	7,100円	田上1泊7,100円
	打合せ費	97,990円	東京出張交通・宿泊費1回40,980円 大阪出張交通費1回11,010円 和気出張交通費2名2,000円 作品鑑賞費2名4,000円 出張日当:県外10,000円×3日=30,000円 県内5,000円×2人=10,000円
	広報費(Air Village講師出演)	34,000円	取材スタッフ費7,000円×2人=14,000円 配信スタッフ費20,000円
	借用費(Air Village機材借用)	30,000円	撮影・音響・WEB機材30,000円
	記録費	35,000円	撮影費1回7,000円×5回=35,000円
事業実施経費合計(f)		645,040円	
管理運営経費	人件費	155,000円	運営スタッフ 1日7,000円×3人×5回=105,000円 1日5,000円×2人×5回=50,000円
	委託料	150,000円	企画制作費(大森誠一企画事務所プロット)
管理運営費合計(g)		305,000円	
総事業費(h)=(f)+(g)		950,040円	

- (添付書類) 1. 領収書等支払を証する資料は費目ごとに分けて写しを添付してください。
2. 高額となる経費については、印刷した現物や証拠写真などを添付してください。